

世界旅打ち気分

●第35回・サンラザロ

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>
の#グリーンファーム会報#2021年5月号
でご覧いただけます



スタンド前にあるパドックを周回する馬



ファンエリアの食堂コーナーはおすすめ



競馬場スタンド内に設置された闘鶏場

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

「この連載も長くなってきたが、回によつては1回で3場を扱ってみたい、かと思えば1場しか扱わなかったりとバラバラでやっていた。」

なぜか1回1場で過去2回やり、そのうえで残った1場を宿題にしたまま時間が経ってしまったのがフィリピンである。2018年秋にメトロマニラターフクラブ、2020年夏にサンタアナを扱って、最後の1場 サンラザロ競馬場をまだ扱っていなかったかと思う。

過去の回でも書いたが、フィリピンの競馬はもともとマニラ中心部にサンタアナとサンラザロがあったのだが、まずサンラザロが郊外、というかなり離れた場所に移転し、次いでサンタアナも移転した。旧所在地を売って当面の運転資金を稼ぐなどの目的があったようだ。

その後、自動車関係のビジネスで成功した競馬好きの富豪が第3の競馬場であるメトロマニラターフクラブを新設。3場体制となった。このころがいちばん競馬の盛り上がりだった時期で、毎日3場のどこかで開催が行われていた。いまは後述するように新型コロナウィルスの影響もあり、そこまでの開催数

はない。

さて、サンラザロ競馬場である。マニラの中心部から南方に40キロほど。順調なら車で50分だが、マニラ市内の渋滞というのはえげつないので、運が悪いと時間は全く読めない。

また、フィリピンは運転が荒っぽいので、旅行者がレンタカーを運転するのはあまりおすすめできない。以前の回でも書いたが、フィリピンは運転手付きでレンタカーを貸し出している業者が多く、ドライバーのギャラはしれたものなので、現地人に任せたいほうがいい。道に迷ったときにタガログ語で地元の人に聞くといったハードルをクリアすることもできる。

いま調べたらコンパクトクラスの間なら12時間で7250円、24時間で12500円という業者もある(筆者も利用したことのある業者)。日本だったら車のレンタル代ぐらいの値段で運転手も付いてくれるということになる。日本語通訳をつけるとその人件費が乗るが、競馬場に行くのにそこまでする必要はないだろう。もっとも、敢えて通訳も連れていって競馬場につい

てのあれやこれやを取材するという手もある。

私が最初にサンラザロに行ったときも、運転手付きのレンタカーを使った。これが正解。いまのようにグーグルマップなどはない時代なのでおおよその位置しか分からず、下りる高速のインターが把握できていない程度だった。運転手が高速の料金所で聞いてくれれば大丈夫だろうと思っていたのだが、そこから迷う。走っては地元民に聞き、走っては地元民に聞き、の繰り返し。そこでは英語でなくタガログ語しか通用しないので、現地人運転手を雇っておいで本当によかった。

それが2011年のことで、サンラザロが移転してきた8年後のことだった。筆者がぜひとも行こうと思ったのは、フィリピンではじめてカジノとの複合施設として建てられたからだ。この競馬場という施設は名称としてはサンラザロレジャーパークという名前なのだが、レジャーといっても競馬場とカジノがあるだけ。他には一応サッカー場があるが試合をするような施設ではなく、トレーニングメインの

ようだ。

カジノは競馬場スタンドの端にあるのが独立しており、カジノで遊びつつ馬券を買うということとはできない。テーブルはバカラがメインで、筆者が行った2回ほとんどの卓立っている程度だった。他にマシンもある。カジノとしてそこまで見るべきものはなく、「競馬場とカジノの複合施設を見る」という以上の満足感はない。ただせつかく12時間ドライバーを雇うのだから、早めについてカジノで遊んでから競馬をやるといってもよいだろう。

コースは左回り、1周125000のタートのみ。コースは特に特徴はないものだが、スタンドは03年建設と比較的新しいのきれいだ。さらに、メトロマニラやサンタアナと比べてかなり大きいスタンドになっている。筆者は入ったことがないが上の階には来賓室のようなものもあるようだし、2階の来賓室手前までは一般のファンも入ることができ。そこにはサンラザロレジャーパークの大きな模型が置かれており、ここを作ったときにはかなり気合いが入っていたことが分かる。食ファンエリアには食堂がある。食

堂といつても部屋として区切られているわけではなく、広いフロアの一角にテーブルが並べられていてそこで飲食ができる。

この食堂がなかなかいい。値段はフィリピン基準だとやや高いのかもしれないが、ローカルフードの種類が多く、言葉の関係で地元メニューをつまみ注文できない観光客にとってはちよつといい。調理してくれるものもあるが、ピュッフェのようにあらかじめ用意されている料理も多いのでサーブまでの時間も早い。レースの合間に食べるにはそれが便利でもある。

そしてこのサンラザロにはもうひとつ見どころがある。実は闘鶏場も併設しているのだ。筆者が最後に行ったのは2015年で、そのときはまだ施設ができたばかり。闘鶏が始まったのはなかった。ただ競馬場の事務局長のような立場の木ゼさん(奥さんが日本人で親日家)は、それまで現場で客同士が賭ける形しかなかった闘鶏に対し、この闘鶏場から全国に映像を配信してパリティチュル式の賭けを展開したいと意気込んでいた。その後闘鶏は無事スタートしたような

で、行けるようになったらぜひ見に行きたいと思っている。

ちょっと心配なのは、フィリピンの競馬にちょっと元気がないことだ。一時期はメトロマニラが敷地をマンション用地として売却し廃止されるといふ噂もあったし、そこに「コロナがあったのでますます運営は苦しいものと思われる。」

現地に行けないのでネットで確認するしかないが、一応開催は続いている。フィリピンレーシングコミッションのホームページを見ると20年12月までの開催日程が出ていないのだが、全体的に20年以降の更新が滞っている(11月と12月はすべて土日開催で週ごとに3場持ち回りだったように、一応メトロマニラも残っている)。

サンラザロはホームページがわりとよく機能しており、そこを見ると今年になってからは1月に2日、2月は7日、3月は6日開催が行われた形跡がある。闘鶏も月に5日ほど(なんと1日100試合以上)開催があるようだ。ただ馬と鶏の同時開催はないようなので、両方見るためには二往復しなければならぬ。